

## 日本におけるポストコロニアルな社会的排除についての一考察

## —高校無償化制度からの朝鮮学校の除外に焦点をあてて—

○ 北星学園大学大学院 宮崎 理 (8539)

キーワード：朝鮮学校，ポストコロニアリズム，社会的排除

## 1. 研究目的

近年、ヨーロッパでは、社会的排除は、ポストコロニアリズムの現在的な現れとして指摘されている。たとえば、M. O'Brien と S. Penna は、社会的排除とのたたかいは、ヨーロッパ全体のレベルにおいても、各国のレベルにおいても、主要な政策課題となっているにも関わらず、植民地主義的な考え方や価値観・規範、あるいは人びとの諸関係といった社会構造が再生産されているがゆえに、移民的背景を持つ人びとが被排除的な立場におかれ続けていることを“International Journal of Social Welfare”誌上で論じた (O'Brien and Penna 2008)。

こうしたポストコロニアルな社会的排除は、日本にとっても無関係ではない。そのなかでも、朝鮮学校に通う子どもたちへの排除は、いまだに克服されていない問題のひとつである。2010年に始まった高校無償化制度からの朝鮮学校の除外や、それに引き続く地方自治体による補助金の打ち切り（大阪、東京、宮城、埼玉、神奈川、広島など）はその例である。朝鮮学校に対する物理的な暴力を伴ったあからさまな攻撃も生じている。これらは極めて深刻な権利侵害であり、解決すべき社会福祉的課題である。国連の「子どもの権利委員会」「人種差別撤廃委員会」「国際人権自由権規約委員会」「社会権規約委員会」が、日本政府に対して朝鮮学校に対する差別を撤廃するよう繰り返し勧告しているように、国際的にも問題化されている事柄である。

これまで、朝鮮学校に関する研究は、歴史的な経緯や不平等な法制度、朝鮮学校就学経験者のアイデンティティのあり方などに焦点がおかれ、歴史学・法学・社会学・教育学などの分野において研究が蓄積されてきたが、社会福祉学の枠組みにおいて論じられることは少なかった。本研究では、朝鮮学校の高校無償化制度からの除外に焦点をあて、日本におけるポストコロニアルな社会的排除のひとつとしてみたときに、どのような問題が浮き彫りになるのか明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。本研究の中心概念であるポストコロニアリズムとは、“あからさまな植民地支配”が終結した段階であるにも関わらず、支配／被支配、抑圧／被抑圧、排除・被排除といった非対称的諸関係が構造的に再生産され続け、植民地主義が形式的・

非形式的なものとして存続している状況を明らかにする概念である。ポストコロニアル研究の著名な論者の一人であるエドワード・サイード (Said, Edward W.) は、「世界のほとんどの地域で、植民地は独立を達成したが、植民地制服を背後でささえた帝国主義的姿勢 (imperial attitude) の多くはいまなおつづいている」(Said = 1998 : 53) と述べ、植民地主義が地理的・時間的に制約されたものではないことを指摘した。

本研究では、これら知見をもとに、高校無償化制度からの朝鮮学校除外がどのような枠組みの中でなされているのかを考察する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理指針に準拠したものである。

### 4. 研究結果

本研究の結果として、以下の2点があげられる。第1に、現代的な特徴としてみたときに、朝鮮学校への排除は、高校無償化制度という排除の克服をめざした制度において行われたということが指摘される。これは、福祉国家の連帯のユニットが国民に限られていることを前提とした、“外国人一般”に対する排除ではなく、朝鮮学校に対して恣意的に行われたものである。

第2に、歴史的な経緯をみると、在日朝鮮人に対する植民地主義的なふるまいは、福祉国家の枠組みにおいて再生産されてきたものであることが指摘される。そもそも朝鮮人の日本への渡航は、戦前日本が、資本主義的発展を遂げるための低賃金労働を必要とする規模に応じて引き出されてきたものである。また、戦後の状況をみると、いわゆる生活保護の第一次“適正化”の時期に、在日朝鮮人に対する排除は顕在化していた。これには、今日の朝鮮学校に対する態度とも共通点がみられた。

### 5. 考察

高校無償化制度からの朝鮮学校の排除を、ポストコロニアルな社会的排除としてみると、克服すべき課題は法制度上の形式的な問題だけではないことがみえてくる。今後の課題として、排除を多様な要因との関係において、プロセスとして明らかにすることが必要である。

#### 文献

O'Brien, Martin and Penna, Sue (2008) Social exclusion in Europe: some conceptual issues, *International Journal of Social Welfare*, 17(1), 84-92.

Said, Edward W. (1993) *Culture and Imperialism*, Knopf. (= 1998, 大橋洋一訳『文化と帝国主義 1』みすず書房.)